氷の塔の脅威

Dungeon 誌#159 掲載“Menace of the Icy Spire€35

<http://www.wizards.com/DnD/Article.aspx?x=dnd/duad/20081008>

参考：<http://d.hatena.ne.jp/Tirthika/20081016>

作者：Sean Molley / 適正レベル：2 / 適正キャラクター数：5 名 / 公開日：2008,10,08 / 頁数：19 / 備考：FR)

『氷の塔の脅威』は、2 レベルのキャラクター5 名を対象としたダンジョンズ&ドラゴンズの冒険シナリオである。この冒険は、フォーゴトン・レルムの世界を用い、灰色渓谷はラウドウォーターの街の近辺を舞台としている。また、『フォーゴトン・レルム・キャンペーン・ガイド』の第 1 章に掲載されたサンプル冒険シナリオとうまくつながるようにデザインされている。中でも特に、ラウドウォーターやその周辺地域、そして PC たちをこれから始まる冒険に送り出す際の出資者となるべき NPC たちを紹介するシナリオである『オーガ王の塚』の続編として、非常によくできたものとなっている。とはいえ、この冒険を遊ぶにあたって、PC たちがこれまでにラウドウォーターを訪れていることは必須ではない。

冒険の背景

30年ほど昔、ドレイグデュロツホという名のドワーフのウォーロックが、灰色渓谷にやってきた。ドレイグデュロツホはとあるウォーロックの秘密結社の一員であった。彼は、新たなる“妖かしの契約”を作り出すことに関して研究を行っていた。彼はダイア森の中にいまだ手付かずの凄まじいエネルギー 死せる神格の残した力 が眠っていると信じていた。呪文荒廃の数千年前、この地にはカーサと呼ばれるネザリルの都市が存在し、その街の守護神格はカーサスという名の半神であった。カーサスは完全なる神格になるうとして失敗し、その過程で死んだ。そして彼の守護する都市も（ネザリルの古代帝国の他の都市とともに）守護神格の死後まもなくして滅んだ。ドレイグデュロツホの研究によれば、この森の中心部にはカーサスの化石となった亡骸が未だに存在するはずであった。ドレイグデュロツホは、カーサスが溜め込んだ膨大なエネルギーを利用し、新たなる契約に力を与えようとしたのである。ドワーフのウォーロックはダイア森の外、1マイルほどのところに塔を建て、本格的に研究を開始した。

ドレイグデュロツホの直感は正しかった。ダイア森の中心部の地下には、凄まじい魔法のエネルギーが凝っていた。しかし、ダイア森に暮らすフェイたちは、件の半神の力が悪しき者の手に落ちたならどのような恐ろしいことになるかということ十分にわきまえていた。彼らは自ら守護者となり、何びとたりとも死せる神の眠る地を騒がさせはせぬとばかりにそこを守り続けてきたのである。やがてドレイグデュロツホの努力が実を結びはじめ、カーサスの力の影のようなものが引き寄せられて“闇の契約”を形作り始めたとき、

フェイたちはドレイグデュロツホのもとを訪れ、そのようなおせっかいはしてくれるなど警告した。が、件のウォロックは自分の力量に自信があったため、その警告を無視した。このドワーフはあまりにも向こう見ずが過ぎると判断したフェイたちは、彼を罰した。ドレイグデュロツホはフェイワイルドに幽閉され、彼の塔は魔法の氷の石組みで封印された上で、他への警告として残された。フェイたちは冬の精霊を封じた強力な宝石をそこに埋め込み、この氷の砦を維持するための要石とした。

フェイたちが行なった儀式は、非常に限られた範囲でのみ効果を発揮するように組み上げられていた。つまり、ドレイグデュロツホの塔は氷に閉ざされたが、その周囲の土地には影響が及ばないようにと考えられたものだったのだ。とはいえ、このような強力な呪文がいつまでも気づかれぬままでいられるはずもない。また、ドレイグデュロツホの塔の中には、“元素の渾沌”へと通じる小さな裂け目がいくつか存在している。これは塔の主が自分の秘術の研究の一環としてこしらえたものであった。最近、宝石から放射される冷気のエネルギーに引き寄せられてやってきたアイス・ウォリアーの一団が、この裂け目のひとつを発見した。彼らはドレイグデュロツホの塔に住み着いた。というのも、この決して融けない氷の壁のおかげで、ここは彼らにとって最も居心地のいい場所となっていたのである。そうして、ウォリアーたちはさっそくフェイの儀式を歪めにかかった。そうして儀式の力を増し、魔法の霜の効果をより広い地域に押し広げようとしているのだ。誰かがそれを阻まなければ、やがて灰色渓谷全体に永久の冬が訪れるだろう。

冒険の概略

この冒険は夏中日の後から高日月が終わるまでの間に開始する。ここ数週間というもの、灰色渓谷は時ならぬ寒波に見舞われ、高穫日の後なみの気温となっている。旅人たちにとっては今のところさほど危険な事態ではないが、状況からすれば今年は冬が数ヶ月早くやってくるだろうということは明らかである。そんなことになれば作物は凍り付いて収穫前に枯れてしまい、このあたり一帯が大飢饉に見舞われる恐れがある。

PCたちはラウドウォーターでちょっとした、しかし重要な情報を得ることができる。地元民のうち、森で生活している数名が、寒波はどうやらダイア森周辺でとくに酷いようだということを書いてくる。噂では、日はまだ高いというのにありえないほどの吹雪が吹き荒れているという！これは悪い妖精どもの仕業だというものもあるが、街の指導者は、問題の原因はドレイグデュロツホの塔にあるというのがより可能性が高いと信じている。この30年と言うもの、ドレイグデュロツホの姿を見たものもいなければ連絡を取ったというものもおらず、そうして塔にまつわる呪わしい^{いさまつ}経緯はよく知られている。PCたちは相応に詳細なこの地域の地図を入手し、塔で何が起こったのか調べに出かける。

冒険者たちの前にまず立ちはだかるのは、魔法的に捻じ曲げられた天候である。アイス・ウォリアーたちはフェイの宝石を操り、塔の周囲一帯を凄まじい吹雪で閉ざしてしまっている。PCたちは技能チャレンジを成功させ、冬のもたらず過酷な環境の中を迷わずに行軍

せねばならない。この技能チャレンジが成功したか失敗したかによって、吹雪が一息ついたときに発生するゴブリンによる待ち伏せの際に、PCたちが有利な位置にいられるかどうかが決まる。このゴブリンたちは歪んだフェイの魔法によって“霜に触れられし者”^{フロスト・タッチト}となっており、そのため通常のものとは異なった特質を得ている。

フロスト・ゴブリンを倒し、嵐をどうやら乗り切ると、PCたちは塔に到着する。塔は3階建てで、デーモンやデヴィルの姿がその壁には彫り込まれている（これは、ドレイグデュロッホが本来に得ていた“地獄の契約”を讃えようとするものである）。塔を包む氷の繭は無傷で、よって塔に入る前にPCたちはこの氷をどうにかする方法を見出さねばならない。そうして彼らがどうにかして塔に入れるようになると、今度はこの塔に本来ついていた防御機構のいくつかを活性化する引き金を引いてしまう。というわけで、彫刻や石像のいくつか動き出して襲い掛かってくる。

塔の中に入ると、すべてが完全に保存されているのがわかる。それはまるで、件のウォーロック氏はほんの1時間前にちょっと外出したばかりといった風である。表面という表面はすべて霜で覆われているが、家具やその中のものは無傷である。アイス・ウォリアーたちは戦闘の間、ありとあらゆる場所から襲い掛かってくる。戦闘は塔の1階から2階にわたって行なわれる。

PCたちは塔の中にいるウォリアーたちの集団だけでなく、暖炉の中にある裂け目を通して飛び出してくる、“元素の渾沌”からの援軍にも対処しなければならない。

ウォリアーたちを片付けてしまうと、PCたちはドレイグデュロッホの研究室に入れるようになる。そこでは研究ノートや様々な儀式の跡が見つかるが、侵入者から持ち物を守るべく、ドレイグデュロッホが残っていた罠もいくつか存在する。ここでPCたちは真実を知る。すなわち件のウォーロック氏は、死せる神カーサスの力を利用しようとしていたのだ、と。もし君が望むなら、これは君がキャンペーンに“闇の契約”（『フォーゴトン・レルム・プレイヤーズ・ガイド』より）を導入するきっかけとすることができる。またPCたちはここで、ドレイグデュロッホはより大きなウォーロックの秘密結社の一員であったということを知る。ということは、フェイたちが彼を呪い、彼の塔を封印したからといっても、彼の研究そのものはそこで終わったわけではない可能性がある。

塔の最上階で、PCたちはこの自然ならぬ天候の真の原因を発見する。冬の儀式が自らの力を取り込みながら日に日に強力になっていたのである。これを止める方法は、唯一、この儀式の焦点具となっている宝石を破壊することだけである。しかし、冒険者たちが宝石に触れようとする、それを守護するクリーチャーが出現して襲い掛かってくる。

ラウドウォーターへの帰途で、PCたちは弱ったチルボーン・ゾンビと遭遇する。これは、つい最近、歪められた冬の魔法によってアンデッドにされたものである。これはオプション遭遇であり、君がこの冒険シナリオに続いて独自の続編を考えていた場合には、新たな冒険へとPCたちを導くきっかけともなりうるものである。この遭遇はなくてもかまわないし、冒険の最初の方　ゴブリンによる待ち伏せの前もしくは後　に持ってきてもよい。

冒険の導入

この冒険は、PCたちがラウドウォーターを本拠地としているか、あるいは何らかの理由でこの街にやってきたものと想定している。最初の導入は、PCたちに“深刻な問題となる前に、この自然ならぬ天候について調べてほしい”という依頼が舞い込むというものになる。PCたちは既にラウドウォーターの名士の数名あるいは全員を知っているかもしれないし、初めてこの街にやってきたところという設定かもしれないが、ともあれ、時ならぬ冬の訪れを調べに行くというのは当然の選択となるだろう。ラウドウォーターに関するさらなる情報については、『フォーゴトン・レルム・キャンペーン・ガイド』の第1章を参照のこと。

土地の農民たちは、ラウドウォーター市民の指導者であるレイディ・ムーンファイア、そして、シルヴァナスの聖堂の長であるブラザー・グリフォンに、何が起きているのか明らかにしてほしいという嘆願を行なっている。このような事態において、何か邪悪な魔法が働いているのだという疑いが起こるのはごく自然なことで、そのためラウドウォーターに住んでいるウィザード、“鉄面皮の”キュールヴァーもこの事件に巻き込まれている。以下の3人のうちの誰か、あるいは全員に、PCたちへの助力要請を行なわせることができる。

レイディ・ムーンファイア：ラウドウォーター市民の指導者であるハーフエルフのレイディ・ムーンファイアは、街の防衛を担当している。彼女は早い冬の到来を懸念する土地の農民たちの訴えを聞いた。もし収穫ができなければ、灰色渓谷全体が冬の中に飢えることになるだろう。

以下を読み上げること：

「もしあなた方が、この自然ならぬ冬の原因を見つけてくれたなら助かります」と、レイディ・ムーンファイアは言います。「もしこの状態が続いたなら、作物は畑にあるままに枯れ、次の“死冬日”は文字通りの死の冬となるでしょう。調査はダイア森の近くのドレイグデュロッホの塔からはじめるとよいでしょう。あの塔の来歴から考えるに、私にはこれがただの偶然とは思えないのです。キュールヴァーならもっと詳しいことが言えるでしょう。本当のことを言えば、30年もただ待ってはいけなかったのです　ともあれ、誰かがあの塔を調べなければなりません。これは非常に重要な冒険だと私は信じています！」

レイディ・ムーンファイア自身もウォーロックの一人として、ドレイグデュロッホの塔には個人的にずっと興味を引かれてきた。彼女は“冒険の背景”のうち、ドレイグデュロッホの失踪までのすべてを知っている。彼女は件のドワーフを直接知っているわけではないが、彼が膨大な量の魔法の書物を溜め込んでいるという噂はよく知っていた。というわ

けで、PCたちを雇って件の塔が本当に早すぎる冬の原因であるか調べさせるのに加えて、レイディ・ムーンファイアはPCたちに、塔で見つかった儀式書やその他の魔法の書籍はすべて持ってきてくれと頼む。

“鉄面皮の”キュールヴァー：ラウドウォーターに住むウィザードであるキュールヴァーは中年の人間で、ぱっと見には非常に怪しげな人物である。キュールヴァーはこの天気をどうにかせねばならないという重圧に苦しめられている。というのも、これは“間違いなく”悪い魔法によって引き起こされたものだからだという。彼自身は冒険をするような人種ではないので、彼は遠くからこの問題の原因を見つけ出そうとして努力を重ね、そうしてまったく報われていない。とはいうものの、ダイア森の近くから強力な魔法のオーラが放射されていることを彼は見出している。レイディ・ムーンファイア同様、彼もドレイグデュロツホの塔には興味を覚えており、PCたちに“件のウォーロック氏の秘術の研究にかかわりがありそうなものは全部自分のところに持ち帰ってくれ”と言う。

「ミストラの失われた呪文にかけて、僕は件の塔がこの問題と何らかの結びつきがあるに違いないと確信している。あのドワーフのドレイグデュロツホが何を研究していたのか、また何が彼奴の塔を魔法の氷に封じたのか、誰も知らん。が、強力な魔法が関わったものはすべて、いつなんどきでも制御を失って暴れだしかねんのだ。どうやらこのところ、ダイア森に注目が集まっているようだ。もし塔がこの問題の原因でなかったとしても、例のウォーロックの書付けや持ち物のなかに手がかりがみつかるだろう。もうそろそろこのあたりに潜む古代の秘密について、誰かが調べるべき時だ」

ブラザー・グリフォン：この地のシルヴァナスの聖堂の長であるブラザー・グリフォンは、ウスガートの血を引くがっしりとした人間である。冬そのものは巡る季節の中の自然な一員であり、それ自身は特に悪いものではないが、その早すぎる到来は明らかに自然の法則からの逸脱であり、“森の父”も心を痛められるであろう由々しき問題である。季節のバランスは保たれねばならない。ブラザー・グリフォンは必要とあれば、PCたちをレイディ・ムーンファイアか“鉄面皮の”キュールヴァーに引き合わせる。

噂と物語：PCたちは、この自然ならぬ冬の影響を受けた様々な地元民たちを通じて、ラウドウォーターで起こっている事件のあれこれと係わり合いになることができる。“緑ジョッキ亭”で一晩過ごせば、ありとあらゆる噂や無茶な憶測を耳にすることができる。農夫たちは、収穫の次期になるまえに作物が凍ってだめになってしまうという心配をしている。森で暮らす人々は、昼ひなかに吹き荒れたかと思うと何ごともなかったかのようにまた止んでしまうという奇妙な吹雪の話をする。狩人たちは青い肌をした奇怪なゴブリンどもがダイア森の周辺をうろついているという話を触れ回っている。この問題の背後に何が、あるいは誰があるのかということについては全員がそれぞれの持論を暖めているが、主として言えるのは、一般の人々はただ怯えているということである。

足止め：もしPCたちがラウドウォーターに何の所縁もなく、また君もこの塔を独立した冒険として使いたいのだと言う場合、PCたちはそれぞれの所用があって灰色渓谷を旅している、というところから始めるとよい。そうして突然、彼らは強力な魔法の吹雪に襲われる。歪められたフェイの魔法のせいで、この吹雪から抜け出そうとしてPCたちがどのように努力をしても、彼らはひとつところをぐるぐると回ってはドレイグデュロツホの塔に戻ってしまうのだ。この罨を抜け出す道は唯一、塔に向かい、この自然ならぬ天候が何によって引き起こされているのかを見つけ出すことのみである。